

秋季におけるサケ被害状況及び防除試験の結果について

○秋季におけるサケ被害状況について

えりも漁業協同組合から提供された秋サケ漁獲量と、東京農業大学による各定置網漁業者への被害量アンケート調査の結果から、2011年から2016年の被害状況を表1及び図1に示した。ただし、2016年の秋サケ漁獲量及びアンケート調査結果は10月末までのデータを使用した。

表1. えりも地域における秋サケ定置網の被害状況

	漁獲量（尾）	被害量（尾）	被害割合（％）
2011年	515,569	13,243	2.50
2012年	856,871	21,331	2.43
2013年	1,214,684	21,271	1.72
2014年	1,171,668	35,561	2.95
2015年	1,514,833	32,741	2.12
2016年	336,071	16,812	4.76

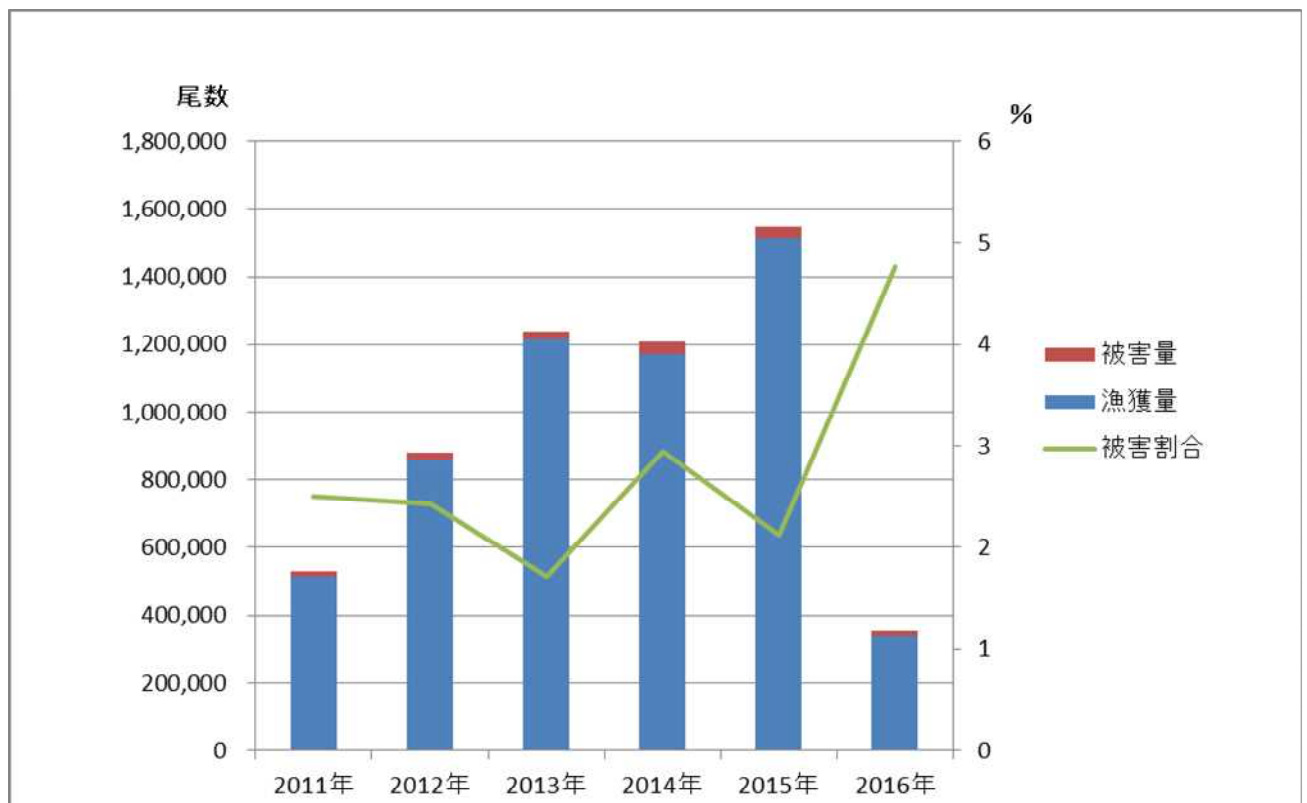


図1. えりも地域における秋サケ定置網の被害状況

※2016年は10月31日時点のデータ

被害量は少なかったものの、今年の秋サケ定置網漁による漁獲量は例年に比べ不漁であったため、被害割合としては高くなった。

被害状況を地区別に比較したところ、いずれの地区においても被害割合が高くなっていましたが、被害量については、東洋地区及びえりも岬地区で前年よりも極端に少なくなっていた。また、地域全体での漁獲量が過去5年間で最も少なかった2011年と比較すると、被害量はえりも岬地区のみ大きく減少していた（図2.）。

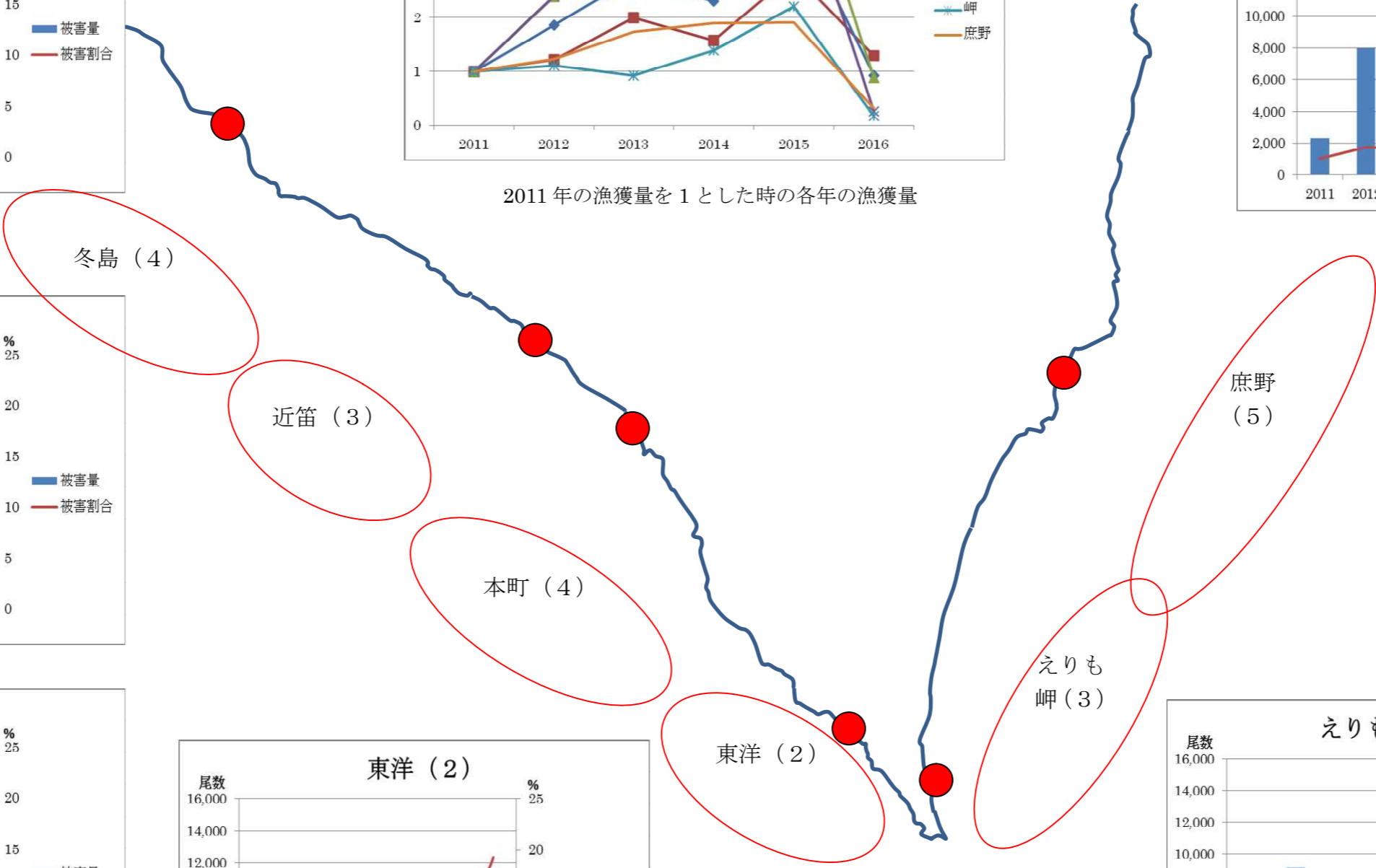
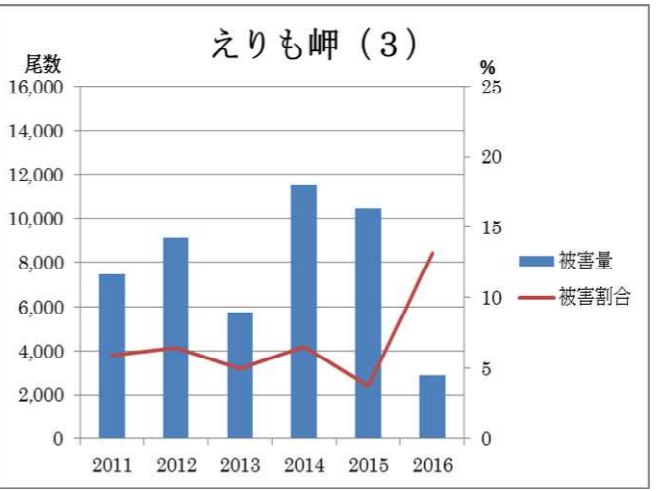
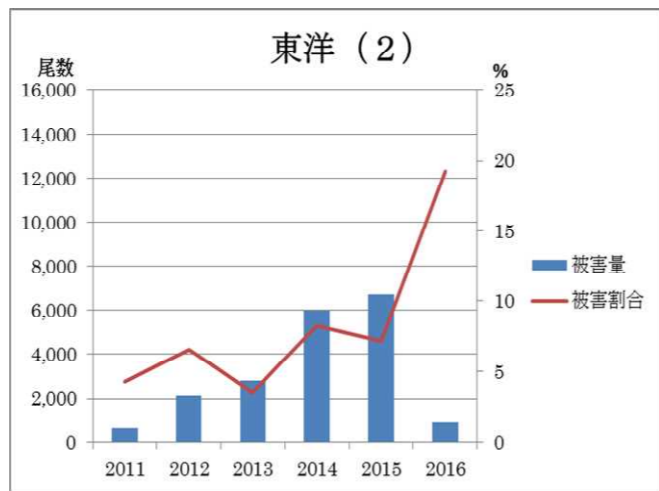
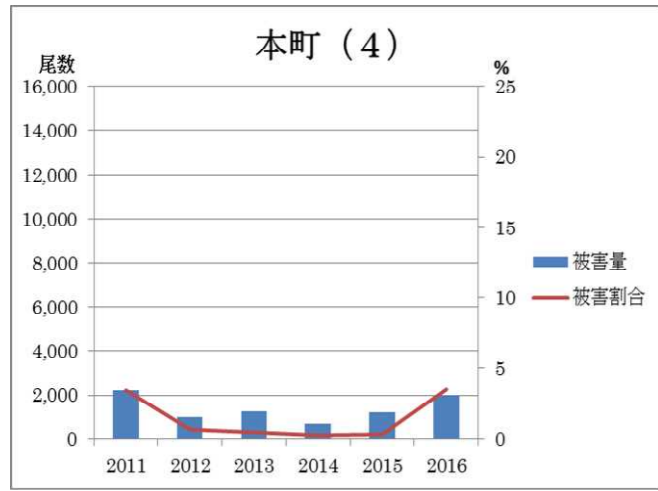
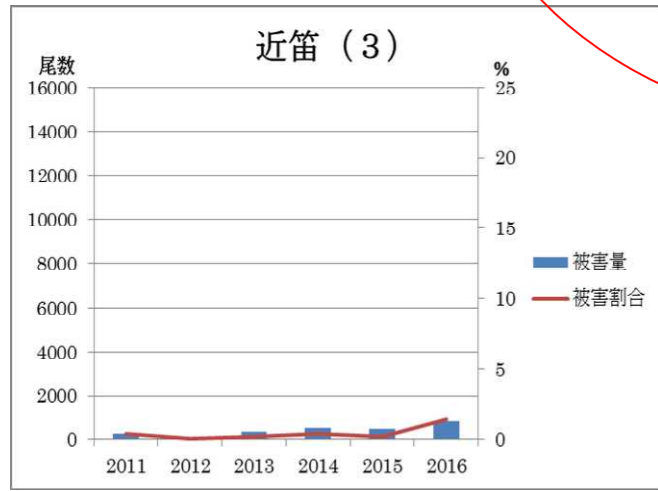
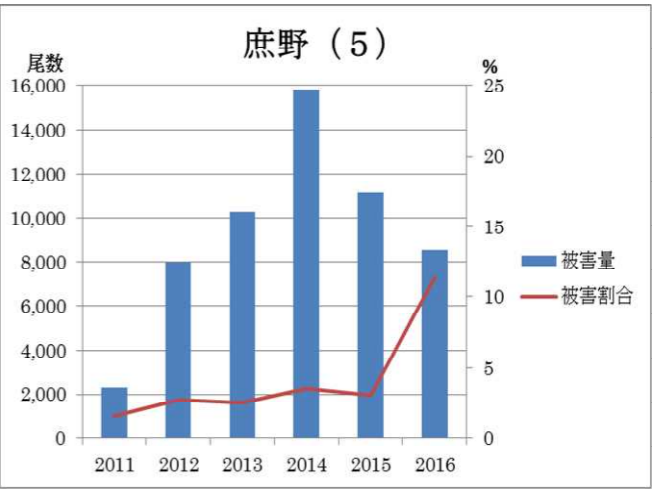
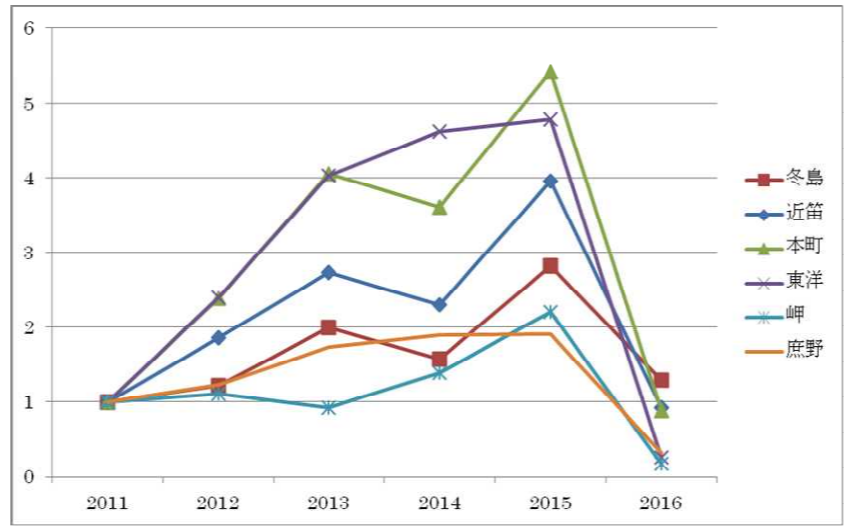
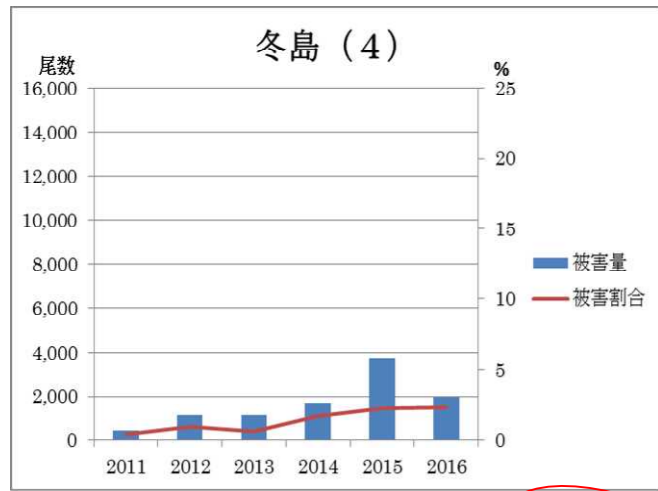


図2. 地区ごとの秋サケ定置網漁の被害状況
 ※地区名の括弧内数字は定置網のヶ統数を示す

○秋季における被害防除の結果について

格子網の装着による被害防除は、本町地区、東洋地区、えりも岬地区及び庶野地区において、各定置網の漁獲及び被害の状況に応じて実施された（表 2.）。

表 2. えりも地域における被害防除の実施状況

地区名	定置網数	格子網の種類	装着期間
本町	1ヶ統	20×20 cm、独自作成（18×18 cm程度）	9/21～10/6
東洋	1ヶ統	25×25 cm、20×20 cm	10/5～
えりも岬	3ヶ統	25×25 cm、20×20 cm、独自作成（網目サイズ多種）	9/5～（2ヶ統） 10/5～（1ヶ統：状況に応じて着脱）
庶野	1ヶ統	20×20 cm	9/30～10/5

特に被害の著しいえりも岬地区のうち2ヶ統においては、漁業期間を通じて格子網が装着された。これにより被害尾数が少なくなったと考えられるが、漁獲量が少なかったために被害割合は27.4%と高かった（図 3.）。

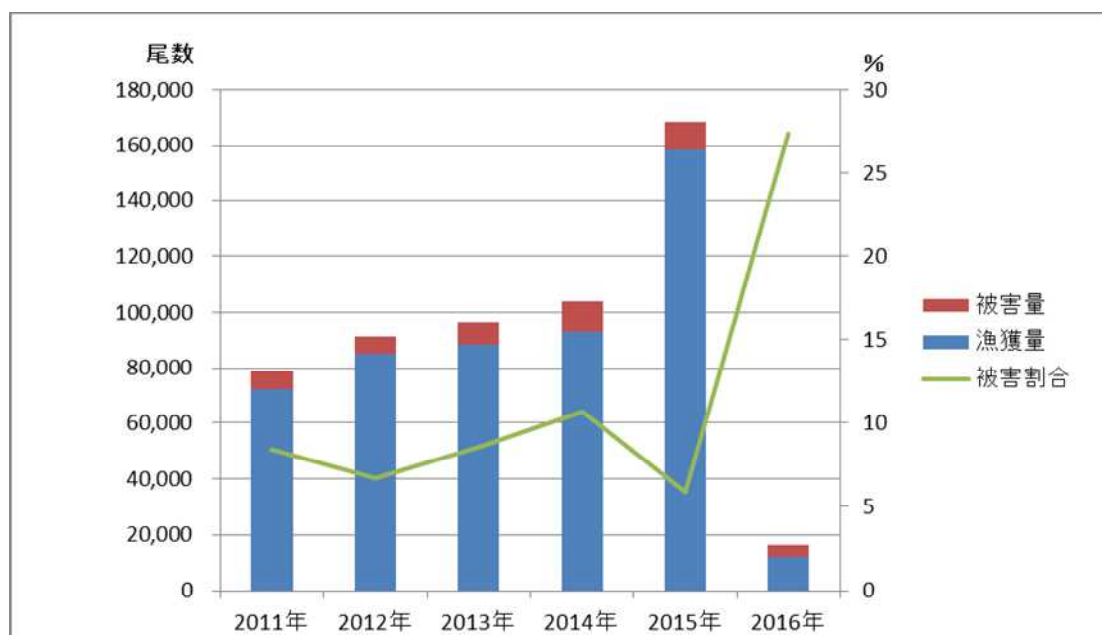


図 3. えりも岬地区の2ヶ統における被害状況

東洋地区の1ヶ統においては漁業期間の途中から格子網が装着された。25×25 cmの格子網では被害を軽減できなかったが、20×20 cmの格子網を装着した後は被害尾数が少なくなり、被害割合も低くなった(図4。)

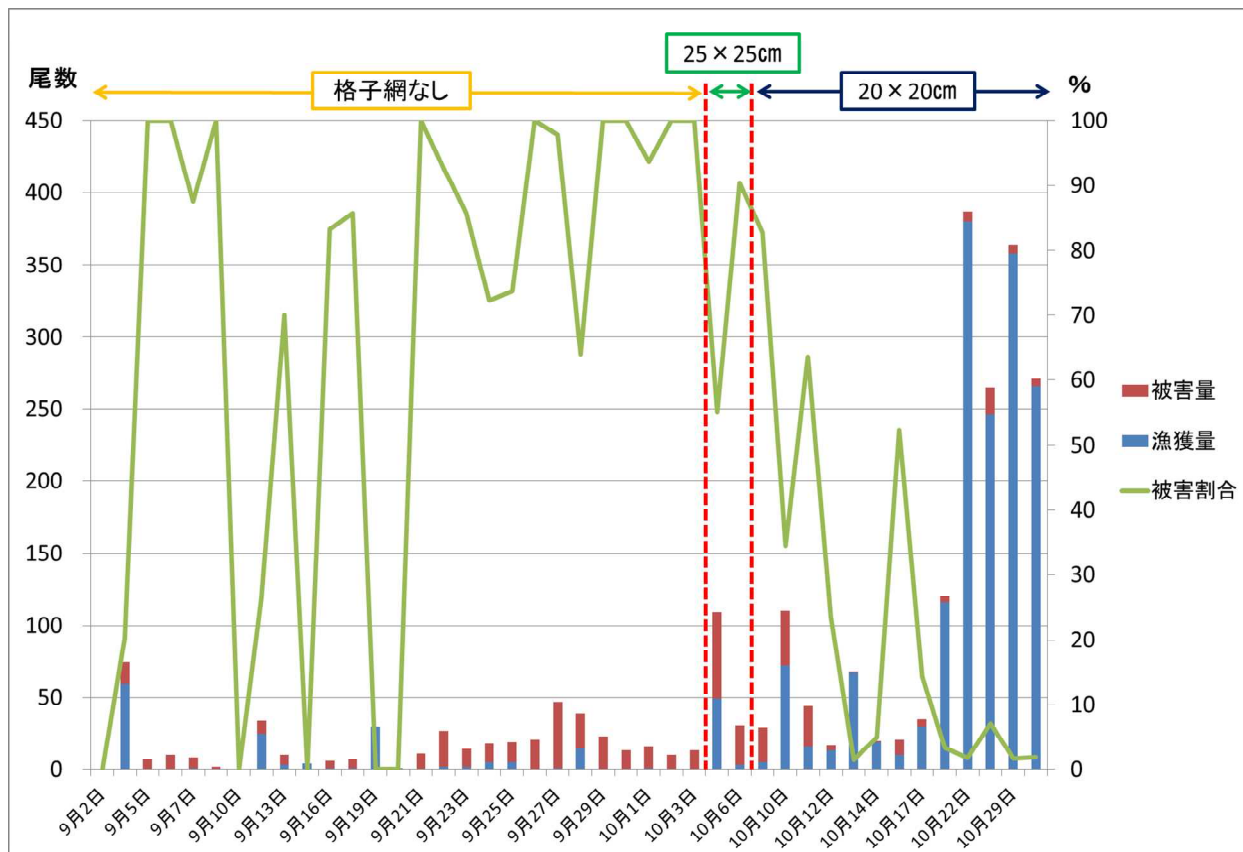


図4. 東洋地区の1ヶ統における日別被害状況

○今後の被害防除について

今年度は極端な不漁であったため、被害防除効果は広範囲・経年的な評価を十分に行える条件ではなかった。しかし、これまで通り個別の定置網における被害の軽減は確認されたため、来年度も引き続き格子網の装着による被害防除を実施し、効果を検証していく。なお、来年度に向けては格子網の材質や色を改良するなど、より効果を高めるための方法を検討する。

○忌避装置の試験について

昨年度の試験によりゼニガタアザラシへの忌避効果が確認された超音波について、効果的に発射する装置を開発・検討するため、えりも岬漁港において試作装置の試験を10月12、13日に生け簀（11×11m）を用いて実施した。標準仕様の試作装置2台とサポート仕様の試作装置1台を組み合わせ、ゼニガタアザラシの幼獣3頭に対して超音波を発射したところ、逃避する行動が確認されるなど、十分な忌避効果が認められた。

今後、漁業者等からの意見を取り入れ、定置網への装着に適した形状や電池寿命等について検討・改良を行う。

なお、本試験は北海道立工業技術センター、（株）仁光電機及び東京農業大学等と連携して実施した。



忌避装置試験の実施状況（写真（右）提供：北海道立工業技術センター）

○上陸個体数調査について（速報値）

陸上からの長期上陸個体数センサスによる最大確認上陸個体数は、9月20日12時の368頭であった。天候が悪い日が多かったためか、近年よりも確認個体数が少なかった（東京農業大学による調査）。

襟裳岬岩礁及び周辺海域において、無人ヘリコプター（UAV）による撮影を繁殖期、換毛期及び秋定置網期に実施し、上陸個体数調査を行った（表3.）。今後、陸上からカウントされた個体数と比較し、岩礁別の見落とし率を算出するとともに、撮影された画像から体長および体幅を計測し、個体群構成の把握を行う。

表3. 上陸個体数調査の実施状況及び確認された個体数

実施日	時間	天気	風向	風速	上陸個体数 (陸から)	上陸個体数 (上空から)
2016年6月7日	8時	晴れ	W	2.2	51	—
2016年6月8日	9時	晴れ	S	2.3	0	—
2016年8月24日	13時	晴れ	SW	1.7	158	413
2016年8月25日	7時	晴れ	E	3.8	26	107
2016年9月11日	13時	晴れ	NE	3.4	9	40
2016年9月25日	16時	晴れ	SW	4.1	28	29
2016年10月3日	7時	晴れ	SW	2.6	120	122
2016年10月17日	6時	晴れ	W	2.7	114	137